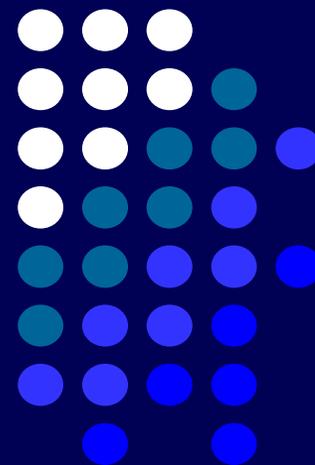


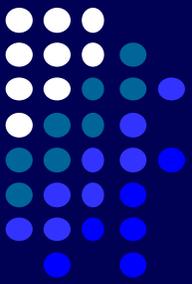
令和元年8月6日(火) コメント

兵庫教育大学大学院
特別支援教育専攻 障害科学コース
井澤 信三



★ 私の資料は、後日、西脇北高等学校のHPにアップしてもらいます ★

今日の実践発表



- **実践発表 ①**

- 「小学校・中学校における通級指導の取り組みについて」

- 西脇市立重春小学校 教諭 藤原 友晴 氏

- 宝塚市立宝塚中学校 主幹教諭 高橋 範充 氏

- **実践発表 ②**

- 「特別支援学校センター的機能の在り方」

- 県立北はりま特別支援学校 教諭 閑念 勝代 氏

- **研究協議**

小学校・中学校における通級指導の取組

- (感想)

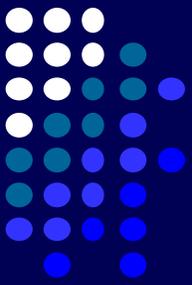
- 本人中心 (人との良好な経験)
- 丁寧な指導・支援 (個に応じた)
- 情報の共有化 (配慮の細やかな伝達)
- ★ やはり教育っていいな ★

特別支援学校センター的機能の在り方

- **(感想)**

- 大きな地域における中心的な機関
 - 連携による地域の底上げ
- 保護者をつなぐ（障害に特化せずに、関心の高い窓口など）

研究協議



- 小・中・高等学校と各関係機関者が取組や課題等の情報を共有し、「縦と横」の連携を深める。

- (感想)

- 現状を知り、よい実践を共有する。及び、課題を共有し、ではどうするかを検討する機会を作っていく
 - 例：中高連携シートが上がってこない
 - 例：上げててもどうなっているかわからない

個別の教育支援計画

～ 障害のある子どもを生涯にわたって支援 ～

- ・一人一人の教育的ニーズを把握
- ・関係者・機関の連携による適切な教育的支援を効果的に実施

福祉, 医療, 労働等関係機関

企業

大学

卒業後

NPO

高校

特別支援学校

高校



特別支援学校

中学校



就学中

大学

保護者

小学校

福祉, 医療等関係機関

福祉, 医療, 労働等関係機関

就学前

保育所

幼稚園



保護者

小学校

NPO

特別支援学校

・個別の教育支援計画の作成、実施、評価（「Plan-Do-See」のプロセス）が重要

小学校・中学校における通級指導の取組

- ① 指導・支援の方針の考え方
- ② 支援をつなぐ（縦と横）
- サポートファイル,
- 個別の指導計画・教育支援計画の活用
- ③ 保護者への継続的な支援

特別支援学校センター的機能の在り方



① 指導・支援の方針の考え方

「障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導」とは、具体的に次のような指導を指します。

特別支援学校における「自立活動」に相当する内容の指導を意味します。内容としては、特別支援学校学習指導要領において、以下の6区分27項目が設定されており、各教科・科目のようにその全てを扱うのではなく、一人一人の生徒の状態や発達の程度等に応じて必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を設定することとされています。

1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。
- (5) 健康状態の維持・改善に関する事。

2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事。
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
- (4) 集団への参加の基礎に関する事。

4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事。
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。

5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
- (4) 身体の移動能力に関する事。
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
- (2) 言語の受容と表出に関する事。
- (3) 言語の形成と活用に関する事。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

出典：高校における「通級による指導」、千葉県教育委員会

職場実習でのつまずきへのフォロー

	日時・場面		状況	相手	不適切な発言等	相手の気持ち	適切な発言等	確認印
1	07/10	清掃時	清掃道具準備や机並び替えをしている時	利用者	相手に対して、手で払う仕草をし、どくように指示	「邪魔だよ！どけ！」って嫌な気持ち	通る前に一言「すみません」と声かける	
2	07/17	朝礼時	昨日体調不良で休んでいた相手に出会った時	利用者	「連休ボケですか？」	馬鹿にされた気持ち	「体調はどうですか？」	
3	07/19	見学会後	見学会終了後	職員	「緊張してたんじゃないんですか？前の方がよかったですよ」	欠点を指摘されたようで悔しい気持ち	「お疲れさまでした」	
4								

フォローのあるつまずきからの学び

1. 関係づくり（ヒトの相談したらよいことがあるといった経験）
2. 状況とやってしまった振る舞いの振り返り
3. その時の相手の気持ちを推測する（きっこう思うよ！）
4. では、次からどうすればよいか（案を出し合う）

★ 滝島真優氏・資料（社会福祉法人つるかわ学園）

「自分で対処する努力」と「環境的支援 (合理的配慮)」のバランス

- 例：報告する
- 自分で対処する努力：「今、いいですか？」
- 環境的支援：「10時10分に来て！」

-
- 合理的配慮を依頼するスキル
 - + 相談するスキル
 - (そのための「人への依頼・相談」における成功体験)

「行動問題」を減らすセルフ・マネジメント例

約束守れたかな？

自己評価（◎10点，○5点，△1点）

目標行動

自己評価

女の子を叩いたり，蹴ったりしない

◎

物を投げない

△

先生のお手伝いをする

○

先生の言うことを守る

○

女の子を叩いてしまうので上記のような約束。お手伝いは進んでするので、いつも○。がんばろうとしているところを認めていくことが大切。なお、20点たまったら、好きな活動をいくつかの選択肢から選んでやることができる。

突拍子もなく、大きな声を出してしまう。今日の振り返りで、以下のように、自分で評価してもらった。

	今日の振り返り		
1	大きい声だった	小さい声だった	静かだった
2	大きい声だった	小さい声だった	静かだった
3	大きい声だった	小さい声だった	静かだった
4	大きい声だった	小さい声だった	静かだった
5			

仕事における課題整理からの合理的配慮

① 本人の障害特性からの会社の評価

①	積極性が足らないと評価を受ける
②	空気が読めないと思われる
③	反省がないと思われ、繰り返し注意される
④	同時に複数の注意をはらえない
⑤	身体的機能面への配慮

とはマイナスです)。

どのようにしたら良いか、改善点も伝えていただくとその後の行動がスムーズになります。

また、本人の価値観から、良かれと思って行動している場合があります。間違いがあった時や改善すべき点があったら、具体的に伝えていただくと良いです。(例:〇〇ではなく、□□にした方が良い)

④ 業務の優先順位を伝えることで、改善が可能です。本人は与えられた業務を『早く終わらせなければ』という気持ちに駆られている可能性があります。

⑤ 障害特性上、両手の協応運動が苦手です。(例:洗濯ものを干す際、左手で服をもち、右手で洗濯バサミを留める)

しかし、回数をこなすことや本人にとってし易い方法を検討することで改善されます。

- 引用：発達障害の受容と課題整理により、就労に結びついた事例～マッサージ業務における就労の一考察～. 斎藤由佳梨（世田谷区立障害者就労支援センターすきっぷ 就労相談室）.

② 本人の障害特性からの具体的な対応策

① 場の空気を読むことが苦手です。伝える際は「〇〇をして欲しい」と意向をはっきり伝えていただくとスムーズに行動へ移すことができます。

また、はじめにすべきことがわかっていると動きやすいです。出勤をしたら、その日の業務を誰に聞けば良いのかを明確化しておくことも1つの対応策です。

② 状況判断が苦手、質問のタイミングを計ったり質問内容をうまく伝えたりすることが苦手です。「△△のやり方はわかりましたか？」などと具体的に聞き、確認していただければ答えられます。

③ 間違いがあったら、その都度本人にお伝えください。この時、感情的にはなく、簡潔に伝えることが本人にわかりやすく伝わるポイントです(口調を荒げるこ

ボトムアップとトップダウンの関係

ボトムアップ的なアプローチ

「個人の能力」を底上げしていき、それを積み重ねていくことで獲得を目指すもの

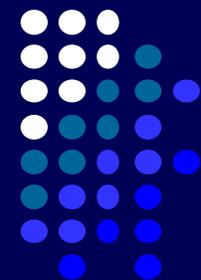
実年齢

トップダウン的なアプローチ

現在と将来的なライフスタイルに直結するような行動目標を選定する。そして、それを実現するための指導・支援としては、その行動目標が成立するように、現在、本人が既存する行動（成立している行動）を活かすことを最優先する。次に、行動目標が成立するように環境を変更・調整することや、必要があれば最小限の指導を追加することにより、行動の成立を目指していくもの

本人の理解，選択による解決の例

- **★ 本人とのやりとり → 本人の意向を踏まえた解決案 ★**
- ① 本人がその時のことは，覚えているか？ 本人がなぜそのようなことをしたか，そのきっかけを言語化できるか？【自己理解】
- **★ 「雨・どろが身体についた」 → イライラ → 「まわりがうるさい」 → 暴言・暴力・・・【対処スキルを学ぶ必要性の共有】**
- ② 次からどうしたいのか／するのか？ ★ 「雨が降ったら，家に帰りたい」 → 代替案「(X)雨に濡れても我慢する，(Y)保健室に行く，(Z)レインコートを着る」など
- ③ 各解決案のメリット／デメリットを考えてみる
- ④ 本人による解決案の選択，決定
- ⑤ 実際上の工夫 → 「保健室に行く前に先生に断ることは無理」といった要望を受け入れる。



② 支援をつなぐ（縦と横）

異なる環境をつなぐためのアプローチ

- **アプローチ ①** : 本人が自分の特性を理解し, それを補うスキルを獲得する [教育的支援]
- **アプローチ ②** : 似たような状況において, 予習 (準備的学習 / 予行体験) をする [シミュレーション学習]
- **アプローチ ③** : 異なる環境をつなぐためのツールを活用する
 - 例) 支援ツール, スマートフォンのアプリなど
- **アプローチ ④** : 支援的な環境に変化させる (合理的配慮)
 - 例) サポートブック等 → 周囲の人の理解・協力
 - 例) ジョブコーチ (環境調整 & 関わり方)
 - 例) 職場における研修

小学校入学準備支援プログラム

プログラムの内容

- | | プログラムの内容 |
|-----|--|
| I | <ul style="list-style-type: none">①はじめの自由時間：アラームの音で着席することができる②はじめのあいさつ：「起立」「礼」「着席」の合図に合わせた行動ができる③自己紹介：人前で自分の名前を言うことができる④休憩時間：休憩時間にトイレに行くことや遊びを自発することができる⑤サーキット：順番を守りながら活動に従事できる⑥終りのあいさつ |
| II | <ul style="list-style-type: none">③学校探検（保健室、職員室、給食室、体育館）：学校の施設の使い方を体験を通して知る⑤席替え |
| III | <ul style="list-style-type: none">③図画工作：一列に並んで物を取りに来ることができる、および与えられた課題に従事することができる |
| IV | <ul style="list-style-type: none">③書字：長時間着席したまま書字に従事することができる、および半透明の線をなぞることができる④積木つみ：順番を守る、および人が話している時は前を向く |

大学入学準備支援プログラム

Table 1 大学生生活準備介入の講義・演習の内容

	講義 (Q&A)	演習
【学業(授業)】 【1日目】	<ul style="list-style-type: none"> ● 何のために大学へ行くの？ ● 履修登録 ● シラバス ● 大学の授業スタイル ● 単位の取り方・単位を落としたり ● 授業中のマナー 	演習用シート「大学へ行く目的とは」 演習用シート「履修登録の疑似体験」
【生活】 【2日目】	<ul style="list-style-type: none"> ● 炊事・洗濯・掃除の仕方 ● 金銭管理 ● スケジュール管理 ● 健康管理 ● 危機管理 	スケジュール管理シミュレーション 金銭管理シミュレーション 勧誘の断り方 (SST)
【対人関係】 【3日目】	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校と大学の先生の違い ● 高校生と大学生の違い ● 言葉づかい ● 距離のとり方 ● 声の大きさ ● 質問するとき ● 生活上のマナー ● 公共のマナー 	自己紹介の練習 (SST) 初対面の人との距離 (SST) 場所による声の大きさ (SST)
【4月当初の生活】 【4日目】	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学にある施設 ● 大学に行くときの服装 ● サークル ● アパート・学生寮 ● 大学の時間割 ● オリエンテーション ● 健康診断 	

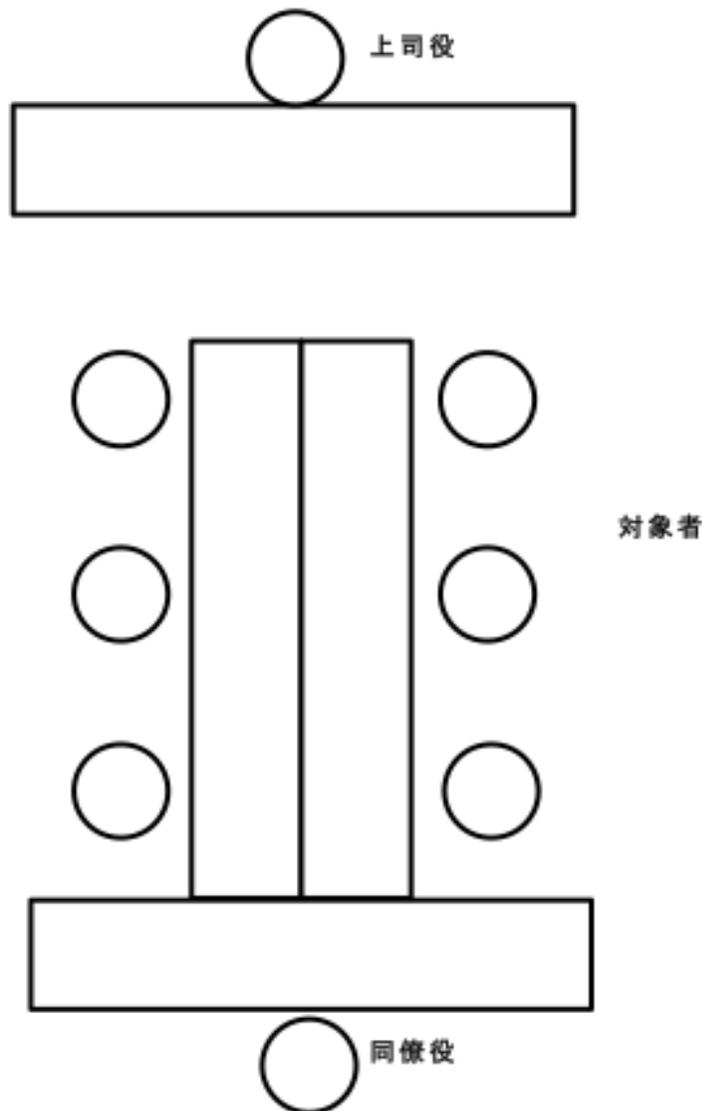


Fig. 2 トレーニングのセッティング

① 基本的には簡単な仕事（作業）を行ってもらいます。

② 仕事中に、上司からの指示、同僚からの頼み、客人の訪問など、いろいろなことが起きますので、それに対応してもらいます。

③ その時に、「今、お時間よろしいですか？」や「ありがとうございます」「失礼いたします」といった「ちょっと気の利いたことば」を言うようにしてもらいます。

職場シミュレーション場面（職場を模した設定）